

東日本ユニオン よこはま

JR東日本労働組合
横浜地方本部
発行者/小清水和彦

東海道貨物線で最大積載量を大幅に超えた 保守用車(軌陸車)同士の事故！作業員6名負傷！

怪我をされた作業員のみなさまにお見舞い申し上げます。

報道によると8月25日午前1時半ごろ発生。

東海道貨物線横浜羽沢～大船間のトンネル内で、線路と道路の両方を走れる保守用車(軌陸車)が別の車両に追突。荷台に乗っていた34～62歳の作業員6人が負傷した。通信ケーブルの敷設工事中だった。2台は自力走行が可能だったことから午前2時半ごろ、線路外へ退出し、営業運行への影響はなかった。事故後の内部調査で、追突した車両の積載量は最大量750キロを大幅に上回る約1.4トンだったことが判明。追突時は時速10キロ以下だったとみられ、工事責任者は「積載量を意識していなかった」と説明した。



イラストはイメージ

昨年10月以降、武蔵野線や常磐線などで保守用車が絡む事故が在来線で4件発生。会社は、取材に対し「当社で発生した5件は輸送障害に至っていないが、重く受け止めている」とコメントした。

何故このような事故が生じてしまったか！

- ・ルールが守られていたのだろうか？
- ・作業時間など適切だったのだろうか？
- ・過剰な作業内容があったのではないのだろうか？
- ・過去に発生した同類の事象は作業に活かされていたのだろうか？
- ・コンプライアンスは守られていたのだろうか？

私たちは、安心して働ける環境をつくり出さなければならない。

**安全の確立を最優先と位置付け、
すべてのJR労働者の死傷事故、
三大労災事故を撲滅していこう！**